



## ロロ・ピアーナ：夏を彩るフォルテ・デイ・マルミのイル・フィオリオ・フラワーキオスクと サントロペのラ・レゼルヴ・ア・ラ・プラージュ

ロロ・ピアーナは、イタリアならではの生活の美学、特別な体験、そしてリラックスしたライフスタイルを体現する、数々の特別な期間限定イベントを開催し、夏を祝います。

魅惑的なフォルテ・デイ・マルミを背景に、トスカーナの夏の風物詩の中心に位置するイル・フィオリオのフラワーキオスクにロロ・ピアーナが再び登場し、五感を刺激するメゾンの世界に浸る体験をご提供します。地中海の雰囲気インスピレーションを得た丸みを帯びた空間は、ウェア、花、そしてアートが訪れる人の目を楽しませてくれます。粘土仕上げのアイボリー色の壁、オークと栗材の什器、柔らかなエッジのくぼみ、そしてストライプ柄のデッキチェアがホリデー気分を盛り上げます。ここでは、夏のリゾートや特別な日を彩る、鮮やかで美しい花々が販売されています。店内では、フランス人アーティスト兼陶芸家のカリム・ラマンとバルレ・スールとの共同制作による「ブルッキング・クレイ・セラミクス」をご覧ください。

ラマンの陶芸作品は、ロロ・ピアーナの質感、動き、そしてエレガンスを陶器の花瓶やセンターピースなどに美しく想起させます。ドレープのかかったカシミアや上質なウールの風合いと流れを模倣し、静かな洗練と芸術的な実用性が両立します。温かみのある、パウダーに近い、砂のようなタッチで仕上げられた作品は、荒々しい風合いを醸し出し、ラマン自らが開発したクリーミーな白い大理石調の釉薬で仕上げられています。ラマンはまた、色彩と釉薬についても徹底的な研究を行い、クンメルとマラカイトグリーンの色合いを生み出し、ロロ・ピアーナの伝統、そして歴史の一部を体現しました。

アン・ソフィーとベネディクト・バルレとのコラボレーション作品は、海岸沿いのトスカーナの生活に漂うエレガントな精神を反映する、地元の植物やメゾンのシグネチャーコードからインスピレーションを得た3つの円筒形の花瓶シリーズです。これらの花瓶は、様々な色彩と、心を揺さぶる手描きの模様で彩られています。温かみのあるアースカラーと、カッターラの大石に着想を得たホワイトを組み合わせ、この地域の自然の美しさを表現しています。メゾンとトスカーナの詩的な解釈が、力強い筆致とダイナミックな技巧によって語られています。

ロロ・ピアーナは3年連続で、サントロペのパンプロヌビーチにあるラ・レゼルヴ・ア・ラ・プラージュで特別な体験を提供しています。家具、パラソル、サンベッド、クッションを白とクンメルカラーで彩り、エレガントな空間に独特の柔らかなタッチを添えています。ラ・レゼルヴ・ア・ラ・プラージュのポップアップブティックでは、ヴェネツィアのラグーンとパステルカラーのブラーノ島にインスピレーションを得た、2025年リゾートコレクションの厳選されたウェアとアクセサリーが揃い、アイコンックなスーツケースストライプのモチーフであるマルチカラーのロープで飾られています。

### カリム・ラマンについて

ラマンは20年以上にわたり、最初はメイクアップアーティストとして、その後は陶芸家として、美と工芸が交差する世界で活動してきました。光、質感、そして精密さのバランスを見事に取りながら、ファッション界の錚々たる顔の彫刻を手がけてきました。時が経つにつれ、素材への強い関心が深まり、陶芸という新たな表現手段との出会いへと繋がりました。それは彼にとって非常に自然なことでした。今日、ラマンはファッションと陶芸の世界を自在に行き来しながら、調和、職人技、そしてタイムレスな美への探求を続けています。

パリと自身のアトリエを構える南フランスを拠点に、彼はフランス、デンマーク、そして日本各地で陶芸のレッスンを受け、新たな技法や可能性を探求してきました。2021年には、現代陶芸とそのクリエイターに特化したパリのアトリエ兼ギャラリー、hors-sériesを共同設立しました。そこは単なる創造的な交流の場ではなく、彼がフォルムと質感の探求を深める実験室へと発展しました。一見シンプルですが、彼の作品は直感とバランスによって形作られています。表面は触り心地を誘い、重量感存在感を際立たせ、それぞれの作品は見るだけでなく、感じられるようにデザインされています。



## バルレ・スールについて

バルレ・スールは、ある家族の物語です。素材とフォルムに対する独自の視点を持つアン・ソフィーとベネディクト・バルレ姉妹は、5代目として自らの物語をオブジェに刻み込んできました。彼女たちの前身は、父クロード・バルレと叔父ピエール・バルレが営む木工所「バルレ・フレール」で、この事業を父と叔父から受け継いでいます。かつてヤスリの音で満ちていたブルゴーニュ地方サン・シンフォリアン・デ・ボワのこの場所は、今やものづくりと工芸の場であり、大切に守られてきた家族の歴史が息づいています。パリでそれぞれの作品の種とアイデアを蒔いたバルレ姉妹は、ここで作品に命を吹き込みます。鑄造、成型、釉薬、彩色を経て、粘土に込められた様々な手技と筆の躍動感を刻み込んでいます。それらは日常の器でありながら、五感を刺激し、分かち合う喜びを称えるものへと高められ、ひとつひとつが唯一無二の、実用性をタイムレスな美しさへと昇華させています。

## 本件に関するお問合せ先：

ロロ・ピアーナ ジャパン株式会社

マーケティング&コミュニケーション 澤田・山口

メールアドレス: [mika.yamaguchi@loropiana.com](mailto:mika.yamaguchi@loropiana.com) / 電話: 03-4332-0265

ロロ・ピアーナは、イタリアの卓越性の象徴であり、そのコレクションは控えめなエレガンスを特徴としています。1924年の創業以来、ロロ・ピアーナではグローバルなお客様に美しく最高品質の製品をお届けすることを使命とし、そのサービス・クオリティのさらなる向上にも努めています。